

通学の足が変わる —東西線で通学が安全で便利に



▲標高約155メートルに位置する東北大学青葉山キャンパス。利便性の高い地下鉄で通う学生が増えています



▲「地下鉄を利用することで、移動時間と行動にゆとりが生まれました」と奥村教授
◀「東西線通学は快適です!」と伊藤さん

市内に複数のキャンパスを有する東北大学。このうち、川内キャンパスと青葉山キャンパスに通う1万5千人余りの学生の多くが自転車や原動機付き自転車などで通学していますが、雨や雪の日には転倒事故などの心配がありました。「地下鉄には安全性や定時性などの優れた利点があります」と話してくれるのは、東北大学運輸交通専門委員会委員を務める奥村誠教授。「在学生には安全・安心な手段で通学してほしいとの思いから、東西線利用を呼び掛けるチラシを作成し配布しています。また、東北大学の入学生の85パーセントは県外出身者。住まいを選ぶ際には地下鉄沿線も候補とするよう、合格通知に通学案内パンフレットも同封し、積極的に呼び掛けています」と取り組みを教えてくださいました。「東西線開業により、仙台駅の東側も通学に便利な地域となりました。今後、沿線地域の住環



通学案内パンフレットには、東西線を利用した場合の通学時間なども記載されています

境の整備が進み、居住地の選択肢が広がると思います。」
12月から東西線で通学を始めた、東北大学工学部4年の伊藤航さん。「11月まで、自宅から川内キャンパスへは自転車、青葉山キャンパスへはバスを利用していました」。雨の日にはバス車内が混雑して乗れないときもあり、山道を徒歩で通うこともあったそうです。「東西線は時間通りに運行され、本数も多いので移動が楽になりました。夜遅くなっても安心できる場所もいいですね。運賃がお得な『学都仙台フリーパス』を購入したので、荒井方面などいろいろな場所に行ってみようと思います」と期待を込めて話してくれました。